

長崎大水害 40 年追悼慰霊
竹灯りのつどい

299 人の御冥福を祈る竹灯籠

ホテルの会、NGH など 11 団体で作った竹灯籠に灯をともし、299 人の御冥福を祈る

40 年前、死者・行方不明者 299 人に上った長崎大水害の犠牲者を追悼するイベント「竹灯りのつどい」を 7 月 23 日、中島川眼鏡橋そばで開催した。

ながさきホテルの会、NGH など 11 団体で作る「竹灯りのつどい実行委員会」でイベントの計画、竹の伐採運搬、灯籠作り、当夜の灯籠配置と管理、撤収まで実施。

眼鏡橋のそばの石畳に竹灯籠をハート形に並べ、その中に「7.23 40」の数字を浮かび上がらせ、また中島川に至る石段と川辺の石畳に犠牲者を追悼する 299 本の竹灯籠に灯りをともし、御冥福を祈った。

(小林 征雄)

NGH 参加者；7 月 23 日(土)；7 人 (前川,根岸ユ,田中,小林,馬場,根岸マ)

準備及び会議、4/19~8/30；延べ 25 人(前川,根岸ユ,田中,小林,
馬場,峰,汐除)

遠藤周作文学館屋外整備

(長崎市東出津町)



7月30日(土) 参加者；峰,片山,久田,田中,中橋,森

伸び放題の草も3台の刈払機で攻略

活動・・・草刈り、草取り、アジサイ剪定

6月25日以来約1ヶ月振りの整備で、どこも草は伸び放題、今日の作業の大変さが予想される。

椿とハマボウ植栽の傾斜地と展望広場は、いつものように刈払い機3台で、順調に作業進捗。

アジサイ周りの草取りとアジサイの剪定を平行して行なったが、約半分くらいで本日時間切れ。今日のアジサイの剪定は、1/2から1/3の背丈に、少し強めの切り戻しをした。(枝の更新)

とても蒸し暑い一日で、休憩と水分補給に注意しながら作業を進め、幸い体調不良者はでなかった。いつも昼食時に近くの木々の枝で監視するトンビも、今日は見かけなかった。あまりの暑さで避暑休み中か？

(森 俊一)



いつものメンバーの参加者



駐車場入口付近(BEFORE)



大量の刈草



アジサイの剪定



展望広場(AFTER)



梅松鶴竹林整備

(長崎市西坂町)



7月3日(日) 参加者 多田マ,栗山,田中,小林

9月11日(日) 参加者 多田マ,栗山,田中,小林

ハイキング部



ミニ富士山に登る

島原半島口之津 「みそ五郎どん」の古里

小林 征雄



日時 2019年9月17日

南島原市口之津町に標高 180mの「富士山」があります。昔この山は、権現山と呼ばれ、地元の人はこの山を「ふつつあん」と呼び伝説の巨人「みそ五郎どん」が隣の愛宕山の一部をすくいとって造ったと言う民話があります。

約 150 万年前の海底噴火が造ったこの富士山山頂に神社が建立されたのは、ここから口之津町が一望できることに加え、山の形が「日本に一高い富士山」に似ていたためです。

富士山神社は平安時代の 826 年静岡県にある富士山山頂の浅間大社奥宮から分霊奉祀され、農業の神様ニギノミコと火と水の神様コノハナサクヤヒメが祀られています。

地域の人の信仰の対象になっている山と神社で、子供からお年寄りまで親しまれています。

4 年前口之津港から国道 389 号線を歩きこの富士山に登りましたが、山頂からは口之津港が一望できずばらしいながめでした。

ハイキング部だより

あれー！ 登山道はずれた？

6 月 12 日、二合半岳へ登ったが、途中、前川さんから「登山道はずれた？」と気づいた時の注意事項が教示されたので紹介します。

① 登山道は何人も人が歩き、道が踏み固められているため、土が固く歩きやすい。

登山道を外れると落ち葉が堆積し、柔らかな道となり、足場が不安定となる。

「あれ！」と気づいたら、固く歩きやすい道を探し登山道に戻ることが大事です。

② 一つの目安として、登山道には一定間隔で、道を示す赤、青、白などのテープが木々に結びつけられている。これを探し戻すが、このテープもあくまでも参考とすること。

小林 征雄

農業体験

(雲仙市瑞穂町)



7月24日(日) 参加者 細川,峰,根岸ユ,根岸マ,森,梅澤夫人
9月17日(土) 参加者 片山,細川,森,梅澤夫人

雑草の成長に驚き！！ サツマイモの草取り

7/24 活動；サツマイモ植付け周辺の草取り

6月4日に植付けたサツマイモ苗、1ヶ月をおかずに周辺の草取りを予定していたが、戻り梅雨の影響で実施が大幅に遅れこの日の実施となった。

畑に着いて驚いたのは、畑全面が50cm以上の雑草に覆い尽くされていて、入口から50mほどの道具小屋まで行くのをためらうほどだった。サツマイモもどこにあるかが分からない状態だった。

サツマイモを植付けた畝周囲を、巾1.5m程刈払い機で除草した後、5人で畝の中のサツマイモ周辺の雑草を手で抜き取った。土は未だ湿り気が有りなんとか抜き取りができ、午前中で終了した。

(森 俊一)



雑草に埋もれたサツマイモ



ほぼ雑草を取り終え休憩

秋ジャガ植付け完了 ホッツ

9/17 活動；秋ジャガの植付け

秋ジャガの植付け適期は、彼岸くらいまでと言われているようで、遅すぎると秋、冬の気温の低下で成長ができなくなる。

8月は暑さで活動は全く控え、9月に入ってから植付け準備(草刈り、耕耘など)を計画していたが、台風接近など連日の天候不順で活動ができず焦っていた。梅澤さんのほうで準備をして頂き植付けができることになったが、翌週は次の台風接近が予報されていて、当日も小雨の降る中、植付けを強行した。参加者は3人だったが、いつもの要領通り、赤芋と白芋の種芋を約10m×7畝を植付け午前中で終了した。

(森 俊一)



ジャガイモ植付け終了



サツマイモの蔓元気に成長

入船町竹林整備

(長崎市入船町)



7月24日(日) 参加者 栗山,小林,多田,前川

野鳥観察

永田湿地自然公園の野鳥たち



小林 征雄



公園の案内板



湿地植物はガマが主役



7月はハスが満開

年中賑わう野鳥たちの貴重な水辺

長崎市黒崎にある湿地自然公園は、2003年4月に開園した面積約9.8haの水田湿地です。そのため、ヨシ、ガマ、セリ等の植物が湿地の大部分を占めています。また、この湿地の生物や生態系の保全をしようと言う目的で整備されているため、コイ、メダカ、トンボなど魚、昆虫が四季を通じて見られます。

野鳥は四季を通じて、

冬は渡り鳥のクイナ、ヒクイナ、カモ類の他にカワセミ、アオサギ、セッカ、アオジ、ウグイス

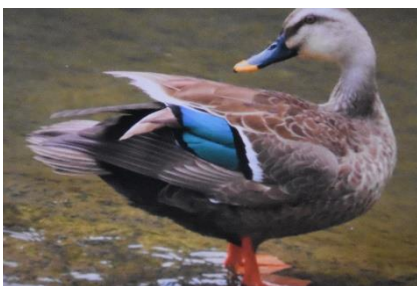
春はホオジロ、ホオアカ、キジ、オオジュリン、カイツブリ

夏はルリビタキ、カワラヒワ、メジロ

秋はツグミ、ジョウビタキ、ノビタキ、セキレイなどが見られます。

今回は珍しい野鳥を撮りましたので写真で紹介いたします。7月から8月ガマの穂が芽吹き、ハスが満開で心がほっとしますので、出かけられてはいかがでしょうか。

冬に見られる野鳥



カルガモ



コガモ



ヒクイナ(珍しい)

春に見られる野鳥



キジ



ホオアカ(珍しい)



カイツブリ

珍しい樹木

ヘツカニガキ(辺塚苦木)

九州西岸北限 球状のいがぐり花序

リンドウ目アカネ科 落葉高木(4~12m)、総状花序、クリーム色の花(2~3cmの球状のいがぐり状の花)
台湾、沖縄 九州南部 四国 に自生

鹿児島県大隅半島 辺塚地区で発見、葉が苦いことからこの名がついた。

日本ではじめて採取され、1846年シーボルトにより英語版で紹介された。

長崎県では、大村日泊地区(大村湾沿い三浦半島)、諫早市飯盛地区に数本自生、九州西岸北限として紹介されている。

7月初め、会員の堀田さんから、「ヘツカニガキ」という珍しい名前の木が新聞で紹介されていたと言う情報があり、見学にでかけた。

場所は大村湾沿いの県道39号線、三浦小学校前から海岸に下りる道路を数百m下った道路脇にあった。高さ7~8mの比較的大きな樹で、丁度開花しており、イガグリ状の花がいっぱいだった。

他に、少し離れた海岸に近い場所に、二本のヘツカニガキの樹が遠目に見られたが、近づく道路が見つからずあきらめた。(森 俊一)



木の近くに立てられた説明板



ヘツカニガキの樹の全景



花序の拡大

植物の科学

イネ科植物の繁栄(1)

非脱粒性の発見

イネ科植物は現在大繁栄しているが、中でもコムギやイネは、今では人類の最も重要な食糧になっていて、人類の発展の歴史を大きく変えた植物と言われる。

秋になりたわわに実る稲穂の風景は、植物としてはだいぶ異常な光景である。植物は子孫を残すためには種子を地面に落とせばらまく必要がある。にも関わらず、籾を落とさずいつまでも稲穂のまま有るのは、野生の植物ではあり得ない姿なのだ。

コムギの祖先種は「ヒツブコムギ」と言われるが、野生の

植物は種子が成熟すると地面にばらまかれる(脱粒性)が、種子を拾い集めることは簡単ではなかった。したがって野生種の「ヒツブコムギ」を食糧にすることはできなかつた。しかしわずかな確率で、種子が落ちない「非脱粒性」の性質を持つ突然変異が起きるのを人類が発見したことが、大きな転機になった。「非脱粒性」種子を、蒔いて育て増やして行くことから人類の農業の始まりになった。

「面白くて眠れなくなる植物学」 稲垣栄洋著

